としょかん通信
ぷらす・あるふぁ　中・高校生版

November 11 月号

公益社団法人
全国学校図書館協議会
〒112-0003
東京都文京区春日2-2-7
電話 03-3814-4317
FAX 03-3814-1790
http://www.j-sla.or.jp/

今月の通信から

スマホ時代の地図とのつき合い方

地図研究家　今尾恵介

「マザー牧場の最寄駅ではありません」

東京の上野駅からJR常磐線の普通列車で約50分、茨城県に入ってほどなく龍ケ崎市駅に到着する。つい最近までは「佐貫」という駅であったが、改札口の手前に「当駅は、マザー牧場の最寄駅ではありません」というポスターが掲示されていた。房総半島のマザー牧場の最寄り駅が千葉県の内房線「佐貫町駅」なのに、うっかり佐貫まで来てしまう人が続出したからだそうだ。「町」のあるなしの違いだけだが、両駅は直線距離でも80kmほども離れている。

本文イラスト：近藤 理恵

この牧場へ行ってみようと早速スマホで調べたはいいが、佐貫と佐貫町の候補が出たところでうっかり「佐貫」に触れると、常磐線に乗せられてしまう。当然ながら駅を降りて牧場行きのバスに乗ろうと思っても途方に暮れる。そんな人がここ数年やけに目立つと感じた駅員さんがポスターを掲示したらしい。

実際この駅からマザー牧場へは3時間ほどもかかるから、気落ちしている人（たいていカップルだそうな）に駅員さんは近くの「牛久大仏」を薦めるそうだ。牧場で牛を見るつもりが、「牛久で大仏見物」に相成るとは思わなかっただろう。

ピンポイントで アクセスできる時代の落とし穴

さて、今では誰もが当たり前のように持っているスマホやパソコンがなかった時代、先人たち（私のようなおじさん世代）はマザー牧場へどのように

としょかん通信
ぷらす・あるふぁ　小学生版

November 11 月号

公益社団法人
全国学校図書館協議会
〒112-0003
東京都文京区春日2-2-7
電話 03-3814-4317
FAX 03-3814-1790
http://www.j-sla.or.jp/

今月の通信から

スマホ時代の地図とのつき合い方

地図研究家　今尾恵介

「マザー牧場の最寄駅ではありません」

東京の上野駅からJR常磐線の普通列車で約50分、茨城県に入ってほどなく龍ケ崎市駅に到着する。つい最近までは「佐貫」という駅であったが、改札口の手前に「当駅は、マザー牧場の最寄駅ではありません」というポスターが掲示されていた。房総半島のマザー牧場の最寄り駅が千葉県の内房線「佐貫町駅」なのに、うっかり佐貫まで来てしまう人が続出したからだそうだ。「町」のあるなしの違いだけだが、両駅は直線距離でも80kmほども離れている。

本文イラスト：近藤 理恵

この牧場へ行ってみようと早速スマホで調べたはいいが、佐貫と佐貫町の候補が出たところでうっかり「佐貫」に触れると、常磐線に乗せられてしまう。当然ながら駅を降りて牧場行きのバスに乗ろうと思っても途方に暮れる。そんな人がここ数年やけに目立つと感じた駅員さんがポスターを掲示したらしい。

実際この駅からマザー牧場へは3時間ほどもかかるから、気落ちしている人（たいていカップルだそうな）に駅員さんは近くの「牛久大仏」を薦めるそうだ。牧場で牛を見るつもりが、「牛久で大仏見物」に相成るとは思わなかっただろう。

ピンポイントで アクセスできる時代の落とし穴

さて、今では誰もが当たり前のように持っているスマホやパソコンがなかった時代、先人たち（私のようなおじさん世代）はマザー牧場へどのように

科学の心を培う ブックトーク

顔が気になる人

山口 真美（中央大学 文学部 教授）

人は顔が大好きなのだと思います。少なくとも、人は顔が気になってしかたがないのだと思います。

認知症の一種のレビー小体型認知症は、妄想が見えることが特徴ですが、その原因の一つに顔の見え過ぎがあると言われています。このように病的に顔が見える状態を、「パレイドリア」と呼びます。枯れ木に幽霊を見たり、妄想の人が見えたりするのは、過度に顔が見えることの延長なのでしょう。

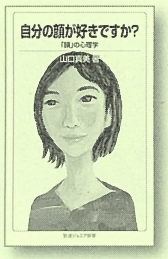
しかし、パレイドリアをインターネットで検索すると、さまざまな楽し気な顔が出てきます。ドアやコンセントや家や木やカバンなど、顔とはまったく関係のないありふれた日常の風景の中に「顔」を見つけだし、その意外性を人は楽しむのです。

パレイドリア、あるいはシミュラクラと呼ばれる、“顔もどき”の写真をたくさん集めたインターネットのサイトや本は、世界各国でみることができます。

藤原幸一 文・写真
そうえん社

『**森の顔さがし**』もその一つです。顔を見ることが好きなのは、万国共通なのです。この顔好きは万国共通どころか、顔を見た経験もない赤ちゃんにも共通することが心理学の実験からわかっています。

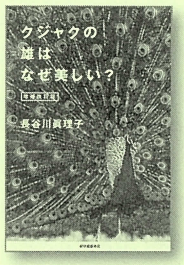
パレイドリアから、人が顔を見るポイントを知ることができました。それは、顔の上部に2つの目らしきものがあり、顔の下部に口のようなものが1つあるという点です。目や口でなくてもかまいません。目口の配置に何かがあればいいのです。こうしたパタンを見出すと、たとえそれが顔でなくても顔と見えるのです。



山口真美 著
岩波書店

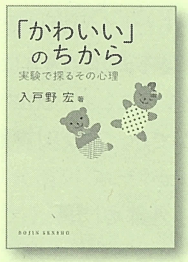
この法則は、生まれたばかりの新生児が顔を好むことにもつながります。顔を見た経験のない新生児でも、顔の配置を好んで見ることが、心理学実験から明らかにされました。赤ちゃんが顔を見る不思議については『**自分の顔が好きですか?—「顔」の心理学**』で学ぶことができます。『赤ちゃんは顔をよむ』（山口真美 著／角川ソフィア文庫）もぜひ。

人はなぜ、顔を好むのでしょうか。人以外の生物と比較することによって、その答えを求めることができます。他者の顔や身体に魅力を感じて引き付けられるのは、人だけでなく生物一般の法則です。生物の進化の中で獲得されてきた、こうした好みについて、その秘密を教えてくれるのが『**クジャクの雄はなぜ美しい?**』です。



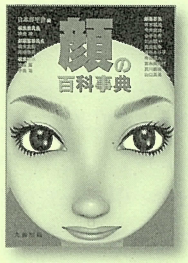
長谷川眞理子 著
紀伊國屋書店

進化の視点で考えると、美しい顔やかわいい顔を好むのは重要なことなのです。中でもかわいい顔が持つ力は強く、みなさんの身の回りにあるアニメのキャラクターやぬいぐるみにも見られるような、かわいいい顔を見るのが人は大好きです。かわいい顔を好む心の働きは『**「かわいい」のちから —実験で探るその心理**』で学ぶことができます。



入戸野 宏 著
化学同人

このような顔の持つさまざま現象に興味を持つようになったら、日本顔学会で編集した『**顔の百科事典**』で顔をめぐるさまざまな事象について調べてみてはいかがでしょうか。



日本顔学会 編
丸善出版

☆このコーナーでは、出版社で品切れになっている図書も取り上げています。公共図書館や学校図書館を利用して、手に取っていただきますようお願いいたします。

科学の心を培う
ブックトーク

錯視を科学する

山口 真美（中央大学 文学部 教授）

意外に思われるかもしれませんが、心理学では「錯視」を研究します。私たちの目や脳が、どのように「だまされる」かを、錯視を使って調べるのです。

研究対象としての錯視ですが、その美しさや面白さから、アート作品として扱われることもあります。有名なアメリカの歌手レディガガのCDのジャケットにも錯視が使われています。その錯視を作ったのは、心理学者の北岡明佳先生です。北岡先生のホームページには毎日新しい錯視がアップされ、さまざまな商品にも使われています。しかし錯視の本来の目的は、視覚の不思議を知ることにあります。**『世界一不思議な錯視アート』**では、北岡先生の作品とともにその不思議を知ることができます。

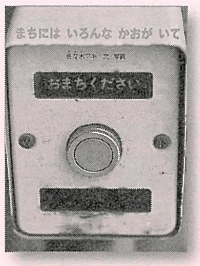
北岡明佳 著
カンゼン

心理学の主要な学会のひとつ「日本基礎心理学会」では、錯視コンテストが毎年開かれています。それぞれが作ったオリジナルの錯視図形をプレゼンする、楽しい場です。小学生の受賞者もいて、学会の授賞式に招待されました。ぜひチャレンジしてみてはいかがでしょうか。

杉原厚吉 監修
東京書籍

こうした錯視コンテストは、日本だけでなく、ヨーロッパやアメリカの学会でも開かれています。そこで1位に輝いた日本人の一人が、数学者の杉原厚吉先生です。不思議な立体図形を作り続ける杉原先生の世界は、**『鏡で変身!? ふしぎ立体セット 驚きの錯覚　不可能立体の世界』**で体験できます。

さて、人は「こうであるはず」という先入観からもだまされますが、その最たるものに「顔」があります。**『まちには いろんな かおが いて』**では、ドアやコンセントや家や木やカバンなど、顔とはまったく関係のないありふれた日常の風景の中に顔を見つけだし、その意外性を楽しみます。類書はたくさんありますが、『ふしぎなまちのかおさがし』（阪東勲 写真・文／岩崎書店）は、街の中に隠されている顔を探して写真に撮ってみようというもので、より積極的な顔探しを提案しています。



佐々木 マキ 文・写真
福音館書店

顔でないものに顔を見つけて楽しむのは、錯視と似た楽しみといえましょう。しかしそこには、人が顔を見つけ出す重要な法則があるのです。それは、顔の上部に2つの目らしきものがあり、顔の下部に口のようなものが1つあるという点です。それは目や口というかたちをもっていなくてもいいのです。こうしたパタンを見出すと、たとえそれが顔でなくても顔と見誤ってしまうのです。枯れ木に幽霊を見ることにもつながるでしょう。

山口真美 作
金沢 創 実験監修
ミスミヨシコ 絵
KADOKAWA

さらにこの法則は、生まれたばかりの新生児も持っています。顔を見る経験のない新生児でも、顔パタンを見出し、好んで見ることが知られています。赤ちゃん向け絵本に顔が使われることが多い理由はこのためですが、より積極的に顔を使った絵本が**『あかちゃん研究からうまれた絵本 かおかおばあ』**です。錯視の作り上げる不思議な世界を楽しむ視点から、本を探してみてはいかがでしょうか。